

## 普及職員（水産） A

〔例題1〕 次の文章は、水質汚濁の評価に関する記述である。文章中の空欄 a ～ e に入るものの組合せとして正しいのはどれか。

有機物による水質汚濁の程度はCODやBODによって評価され、CODでは  の働きにより、BODでは  の働きにより、それぞれ有機物が分解される際に消費する酸素量を測定する。CODは  で、BODは  での水質汚濁の指標として主に用いられる。CODとBODのいずれも、数値が  ほど有機物が多いことを示す。

	a	b	c	d	e
1.	微生物	酸化剤	河川	湖沼や内湾	低い
2.	微生物	酸化剤	河川	湖沼や内湾	高い
3.	酸化剤	微生物	湖沼や内湾	河川	低い
4.	酸化剤	微生物	湖沼や内湾	河川	高い
5.	酸化剤	微生物	河川	湖沼や内湾	高い

【正答 4】

## 普及職員（水産） A

〔例題2〕 生物生産の基本に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 近年、無限と考えられていた海の水産資源が有限と認識され、この海と資源をどのように有効利用し、かつ維持していくかを画一的な視点から模索する必要が生じた。21世紀に入り、淡水魚や海藻の生産性を上げるための養殖が進展するとともに、海水魚の網生簀養殖が飛躍的に発展し、養殖の概念が形骸化した。
2. 増殖とは、天然水域において漁業資源が減少してきた場合、これを回復し、あるいはより積極的に天然資源を維持・増大しようと努力が払われるときの、その手段と技法をさす。増殖の目的は、私的水面において水産生物の生活及び生息環境を直接または間接的に管理し、繁殖・成長を抑制させ、漁業生産を維持・増大させることにある。
3. 栽培漁業とは、人為的に大量の種苗を生産（人工種苗生産）し、これを一定期間飼育（中間育成）して放流する。その後、生育場を適正に管理しつつ自然の力を利用して育成を図り、生産性を高めて採捕するという一連の人為的行為が結びついた漁業形態であり、「つくり育てる漁業」ともいう。
4. 蓄養とは、一定区域を占有して、その区域内で自己所有の魚介類や藻類などの生活と生息環境を管理し、それら生物の繁殖や成長を図り、目的とする大きさ（商品サイズ）まで育成する方式である。
5. これまで水産物を生産するシステムは集約的養殖から粗放的養殖への流れ、さらに栽培漁業による資源の増大を目指した方向にあったが、環境に配慮した持続的生物生産、資源の有効利用などの動きのなかで、方向性に画一化がみられる。

【正答3】

## 普及職員（水産） A

〔例題3〕 海藻加工品に関するア～ウの記述の正誤の組合せとして妥当なのはどれか。

- ア. 長切りコンブは、ナガコンブ、リシリコンブ、ミツイシコンブ、ホソメコンブ、ネコアシコンブなど幅が細く、丈の高いコンブを乾燥し、150cm程度の長さに切って束ねたものである。
- イ. 食用ノリは、養殖されたスサビノリが主である。ノリ養殖者が行う工程では水分が約10%になるまで乾燥されるが、この水分含量では長期保存に耐えないため、問屋や加工業者で水分が約4%になるよう再乾燥され、素干しのりとなる。
- ウ. 湯通し塩蔵わかめは、生ワカメを熱湯中に30秒から1分間漬けて藻体を緑色にし、これを冷却・水切り後、5～10%程度の食塩を混合して葉状部分のみ製品化する。また、カットわかめは、湯通し塩蔵わかめを適当な大きさにカット後、脱塩、乾燥したものである。

	ア	イ	ウ
1.	正	正	誤
2.	正	誤	正
3.	正	誤	誤
4.	誤	正	正
5.	誤	正	誤

【正答5】